中小企業の目【広島県呉市】

「世界経済の血流である海運物流」
社員と共に、これからも邁進して行きます

菅　原　勝　利
（菅原汽船株式会社
代　表　取　締　役）

古より海上交通の要衝として栄えた瀬戸内の下蒲刈島（しもかまがりじま）が、私の故郷です。多島美の素晴らしい眺めが自慢で、いまでも実家近くの畑へ定期的に帰って汗を流しています。当社の創業者である父が終戦の半年後に日本へ戻り、地元船主の船に乗り経験を積みました。その約2年後に古くて小さな石船（木造の砕石運搬船）を購入し、我が社の歴史が始まります。

長年に渡り父が船員さんと共に乗船をし、家業を続けていました。1980年4月には、2代目社長となる兄が大学卒業と同時に乗船、4歳下の私もその後合流をし、親子3人を含め船員さんと共に乗船していました。

1992年に4千トンの中古近海船を購入し、外航の世界へ入って行きました。外航海運への進出には、地元の船田海運殿にご指導を頂きました。

その翌年に、故郷の島から呉市仁方へ事務所を移しました。その翌年の1994年に同じく中古の少し大きい近海船を購入し、川崎近海汽船殿とのご縁が始まりました。また同時に本船の船員配乗業務を大阪の三徳船舶殿にお世話になり、呉市ご出身の多賀社長様ともご縁を頂きました。

外航海運は基本的にドル収入ですから、円高は経営を揺るがせ兼ねない大きな要因です。その怖さは今治の船主の方より何度か聞いていました。当時の弊社には、2隻目の近海船の円高対応が課題となっていました。借入を円からドルに変更して貰いたいと、融資銀行へお願い致しましたが中々承認を得られません。そんな状況下で商工中金殿とのご縁を頂き、直ぐにドル借り入れへの変更をお願いし、1994年12月に完了いたしました。その翌年の4月にそれまでの最高値である79円台を付けたのは、皆さんもご存じの事と思います。弊社にとって初めての超円高での局面を、お陰で乗り切ることが出来ました。

その他に思い出のある船舶は、2002年に川崎汽船殿の傭船で、地元の中国木材殿向け米材専航船が、同じく地元の神田造船所殿にて竣工いたしました。この本船で、協調融資ではありますが初めて商工中金殿からの新造船が出来ました。これまでに中古船も含めて8隻の所有船でお世話になっています。

先述の多賀社長様より後押しを頂き、自社管理をするべく国際ルールの安全管理システムの

適合証書を取得し、将来の船員配乗も含めた船舶管理を本格的にスタートしました。その後2008年にベトナム人Crews、2013年にミャンマー人Crewsの配乗を開始することが出来ました。

勿論これまでに厳しい時期は何度もありました。リーマンショック時、2011～12年に掛けての超円高の時期、2015～16年の海運マーケットの下落で傭船社の倒産やここ数年のコロナ禍の影響など。しかしその都度全社一丸となってコスト削減などに取り組み、危機を乗り切ることが出来ました。またその間、傭船社、金融機関、商社、造船所など多くの関係者の方々にもお世話になりました。

2016年に現在の呉市内の事務所へ移転いたしました。その後海外子会社をパナマ法人から、マーシャル法人に変更しています。マーシャルアイランド海事局日本代表の岡本様との出会いにより、新たな展開が出来ました。

第二の創業者ともいえる2代目社長の兄が、外航海運への進出、そして社業も大きく伸ばしてくれました。3年ほど前に突然社長交代の話が有り、2020年4月より3代目社長として悪戦苦闘しながら頑張っています。

幸いな事に弊社は既述の通り自社管理をしている関係で、優秀なる役職員が沢山在籍しています。現在では皆の力の結集で、会社自体自ら成長している様に感じられます。経営理念にも謳っていますが、先ずは社員・船員の皆さんが幸せな人生を歩んで頂くよう取り組んでいます。その上で、お世話になっているお客さんに安心してお付き合いを頂ける様、所有船舶の安全運航、健全なる財務体質の追求、嘘のない情報公開などに努めています。

2020年に念願だったシンガポール子会社を設立いたしました。現在では3隻の船舶を保有しています。また長年ご愛顧を頂いています川崎近海汽船の社長様よりお話を頂戴し、政府の推進する洋上風力発電の事業にも寄与するオフショア支援船を購入するべく内航海運会社を20数年振りに設立し、昨年3月に1隻の船舶を購入致しました。この本船への融資は、商工中金殿がアレンジャー兼エージェントとなりシンジケートローンでお世話になりました。

当社は船舶貸渡業で、所有船舶を傭船社へ貸し出す事で事業を成しています。自社管理をする定期傭船と、傭船社が管理を行う裸傭船との二タイプが有ります。主に裸傭船は海外の傭船社が多く、実際に面談もせずに商社やブローカーに紹介頂くだけで契約する事も多々ありました。そんな折、ギリシャにて世界的な海事展であるPosidoneaが昨年6月に開催され、各商社に案内して頂きました。現在取引のあるギリシャとトルコの7社の経営者と直接面談する機会を頂きました。考え方なども聞くことが出来、共に歩んで行けると安心致しました。

海運業界も世界的にカーボンニュートラルへの取り組みを推し進めています。体力のない当社が出来る事は限られていますが、全役職員で社会情勢の変化を感じとり、お客さんの求めているものを把握し、安全運航に磨きをかけ、選ばれる会社になるべく歩んで参ります。

振り返ってみますに、これまで多くの皆様方とのご縁、ご指導のお陰で弊社のいまが有ると、改めて感謝をしています。

世界経済の血流である海運物流の一端を担っているとの自負心と責任感を持ち、全社一丸となって企業価値の向上に取り組んで参ります。